闘病記の社会的役割

―「病者」「健常者」2 つの視点から―

要旨

本論では、「病者」と「健常者」という 2 つの立場の人々がが闘病記に対して何を求めているのかという点を明らかにすることで、闘病記がどのような社会的役割を果たしているのかを解明することを目的とした。

まず、第 1 章では闘病記とは何かを説明している。論じるにあたって前提となる「闘病記の定義」や実際に闘病記出版の実態把握を行い、闘病記の実態として出版点数の増加傾向が読み取れた。それを踏まえ、先行研究をもとにして年代ごとの闘病記の特徴を示している。

第 2 章では、第 1 章で述べた各時代の闘病記の特徴から、闘病記の形態が変化してきたということと、考えられる変化の要因について説明した。ここでは、出版事情の変化・執筆機会の増加と手段の平易化、最後に日本の死因構造を要因として挙げている。

次に第 3 章においては、これまでに述べてきた闘病記の実態から「闘病記出版の増加＝」＝闘病記が社会に求められている」ということだと考え、読者の「病者―健常者」という 2 つの視点と著者との関係性を軸に検証を行った。闘病記を 4 冊分析の対象とし、それぞれについてインターネット上に投稿されているブックレビューの傾向をまとめた。

第 4 章で、前章で得られた結果から、読者の性質を「参考型」「自己再認識型」「自己投影型」「共鳴型」という 4 つに分類し、それぞれがどんな性質を有しているのかについて細かい分析を加えた。その結果「病者」と「健常者」が闘病記に対して求めているものが明らかになった。

第 5 章では、考察としてこれまでに得られた知見から、「自己再認識型」では「健常者―病者」間の距離を広める可能性を持っていたり、病気についての社会的イメージを再生産しかねない危うさをはらんでいることを指摘した。その上で、闘病記の社会的役割について筆者の見解を結論として提示した。加えて、新たに「患者に対するイメージ」の誕生を示唆し、今後の展望について述べている。

卒論目次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
第 1 章　闘病記とは何か・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第 1 節　闘病記の定義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第 2 節　闘病記出版の実態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
1.2.1 闘病記出版実態の把握方法/4
1.2.2 実態把握に用いたデータの紹介/4
1.2.3　結果/6
1.2.4 各データから見る闘病記出版点数の実態とは/12
第 3 節　闘病記の歴史・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
1.3.1　明治時代から戦前・戦後にかけての闘病記 /14
1.3.2　1960 年代～1970 年代における闘病記/15
1.3.3　1980 年代における闘病記/15
1.3.4　1990 代以降から現在に至る闘病記/16
1.3.5　今後の闘病記像と対象疾患をがん以外とする闘病記/17
第 2 章　闘病記の変遷とその要因・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
第 1 節　闘病記の著者層の変化 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
第 2 節　闘病記著者層の変化の要因 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
2.2.1　出版事情の変化/19
2.2.2　書く機会の増加と手段の平易化/20
2.2.3　日本の死因構造/21
第 3 章　検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
第 1 節　検証の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
3.1.1　検証の目的/24
3.1.2　検証の材料紹介/25
3.1.3　検証方法/27
3.1.4　検証における留意点/28
第 2 節　検証結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
3.2.1　著者の主張と読者の傾向比較/31
3.2.2　病者―健常者によるブックレビューの傾向/40

第 4 章　分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
第 5 章　考察・まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
参考文献/57
参考 URL/58